

エネジンは業務用ガスのすべてのお客様にCO対策しています！

浜松市南区高塚町のスズキ本社食堂で一酸化炭素（CO）中毒とみられる事故が発生してから30日で1週間を迎える。無色無臭で吸引に気付かないまま中毒症状を引き起こすCOの怖さが改めて浮き上がるとともに、防止対策としてCO警報器の重要性が再認識された。ガス業界関係者は地域社会に向けて、「法的義務はないが、予防のためには設置を心掛けてほしい。定期的な点検も不可欠」と呼び掛ける。

「無色無臭」のCO

スズキ本社食堂
中毒疑い1週間



潜む危険

飲食店「人ごとでない」

CO中毒を防ぐ業務用換気警報器の設置場所を確認する木下靖二さん＝26日、浜松市東区有玉南町の飲食店「広島お好み焼きタイラ」

浜松市東区有玉南町の飲食店「広島お好み焼きタイラ」は、COが一定の濃度に達するとアラームが鳴る業務用換気警報器を厨房（ちゅうぶじょう）に設置している。店の木下靖二さん（43）は、鳴ったことはないが、今回の事故を知り、人ごとではないと感じたと気を引き締める。

鉄板周回の換気扇は手でスイッチを押して稼働させる。押し忘れれば、事故が起りかねない。「従業員個人意識だけに頼るのは限界がある」と備えの大切さを訴える。

（同市区）は飲食店やホテルなど業務用LPGガスを供給する全顧客に、CO対応の警報器を貸与している。担当者が警報発年に1回点検し、換気扇の徹底を促す啓発チラシを手渡している。厨房の給気口が荷物でふさがっていないか、排気ダクトにほりかまっっていないかなどを注意点に挙げる。

ガス業界 警報器設置、点検を

警報器の普及取り組むガス警報器業協会（全支部）によれば、食卓や業務用厨房施設で発生したCO中毒事故は、警報器未設置が大半を占めた。換気扇稼働させていながら、換気フィルターが詰まっていたり、ス機器を用いた状態にすケースが多い。都市ガスについては全国業務用厨房施設の約半数が警報器を導入しているが、CO中毒の事故件数は減少傾向という。

浜松市南区高塚町のスズキ本社食堂で一酸化炭素（CO）中毒の疑いなどで調理スタッフ4人が相次いで救済搬送された事故で、COが検知された洗浄槽に設置されている食器洗浄機に故障は見つからなかったことが、関係者の取材で分かった。スズキは同日までに、洗浄機が安全に稼働するのを確認し、食堂を再開した。

関係者によると、ガスを動力にした洗浄機から何らかの理由で、COが発生したとみられる。救急搬送された1人は、いずれも洗浄室付近にいて、一部の人は搬送先の病院でCO中毒と診断された。

洗浄室は事故当時、換気不十分だった可能性がある。スズキによると、室内の換気設備は従業員が出勤時に稼働させる決まりになっていた。浜松市警などは作業マニュアルに照らし、事故当日の作業手順などを詳しく調べている。

洗浄室のある厨房（ちゅうぶじょう）にはガス漏れ警報器が設置されていたが、COは検知できないタイプだった。同社は今回の事故を受け、COに対応した警報器を設置したという。

先日のCO中毒事故をうけ、CO中毒の危険性についての記事が掲載されました。エネジンのガス供給先である「広島お好み焼きタイラ」様のCO警報器設置状況とともに、エネジンのCO警報器設置、点検、換気の重要性周知などの取り組みも紹介されました。今後も皆様に安心してガスを使っていただけるよう、安全に関して妥協することなく努めてまいります。

令和4年(2022年)8月30日(火)

静岡新聞

